**（シンポジウム抄録の例です）**

ローフリクションブラケットと歯科矯正用アンカースクリューを用いた下顎歯列弓のen masse distalization

社会医療法人恵佑会札幌病院　矯正歯科　　梶井　貴史

　アングルⅡ級・ローアングルで下顎前歯の軽度叢生を伴う症例では、上顎前突の改善と過蓋咬合の増悪防止のために、下顎歯列には小臼歯非抜歯を選択し、臼歯を遠心移動することにより下顎前歯の叢生の改善を図ることが多いと思われます。その場合の臼歯（さらには歯列弓全体の）遠心移動方法には、いくつかのメカニクスが考えられます。

　今回、下顎臼歯遠心移動を、ローフリクションブラケットと歯科矯正用アンカースクリューを用いて行った症例と、ローフリクションブラケットとⅢ級ゴムを用いて行った症例とで比較してみたので報告します。

　１、ローフリクションブラケットと歯科矯正用アンカースクリューを用いた症例

　24歳女性。「骨格性下顎後退症で、顎角の狭小による過蓋咬合、下顎切歯の唇側傾斜、下顎前歯部の軽度叢生」の診断のもと、上顎両側第一小臼歯を抜去、下顎小臼歯は非抜歯でローフリクションブラケット（.022”×.028”slot preadjusted）にて治療を行った。下顎左右臼歯部頬側に植立されたスクリューから左右犬歯にアンダータイでエラスティックチェーンをかけ、下顎犬歯から大臼歯までを一塊とし遠心移動を行い、獲得されたスペースを用いて下顎切歯を配列し唇側傾斜を改善した。遠心移動距離は片側で3.5 mm、移動期間は5か月であった。

　２、ローフリクションブラケットとⅢ級ゴムを用いた症例

　16歳女子。「歯槽性上顎前突症で、顎角の狭小による過蓋咬合、下顎切歯の唇側傾斜、上下顎前歯部の軽度叢生」の診断のもと、症例１と同様に、上顎両側第一小臼歯を抜去、下顎小臼歯は非抜歯でローフリクションブラケットにて治療を行った。上顎左右大臼歯のチューブから下顎左右犬歯にⅢ級ゴムを患者にかけてもらい、下顎犬歯から大臼歯までを一塊とし遠心傾斜させ、獲得されたスペースを用いて下顎切歯を配列した。下顎切歯の唇側傾斜の改善にまでは至らなかった。遠心移動距離は片側で2.5 mm、移動期間は7か月であった。

　以上のことより、ローフリクションブラケットと歯科矯正用アンカースクリューを用いて臼歯（さらには歯列弓全体の）遠心移動を図る際には、スクリューから犬歯もしくは側切歯へ直接エラスティックチェーンをアンダータイでかけることにより、いわゆるen masse distalizationが確実かつ比較的迅速に行えることが、改めて示されました。

（998字／1,000字）